

第 3 学年 1 , 2 組 社会科学習指導案

授業者 教諭 小寺 千づる (3 - 1 , 2 教室)
 教諭 北川 恵美子 (3 - 3 , 4 教室)

1 単元名 かわってきた人びとの暮らし

2 単元の目標

古くから残る暮らしに関わる道具, それらを使っていたころの暮らしの様子や地域に残る文化財や年中行事を見学, 調査したり, 年表にまとめたりして, 人々の生活の変化や人々の願いについて考える。

1 昔の暮らし (12 時間)

昔と今の道具の違いを調べる活動を通して人々の知恵や願いについて考えるとともに, 人々の暮らしの様子が変わってきたことがわかる。

- (1) 昔の道具の使い方や, 当時の生活の様子をすすんで調べようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 昔と今の道具の違いから, 昔と今の生活の違いや, 当時の人々の願いについて, 具体的に考えることができる。
(社会的な思考・判断)
- (3) 道具調べを通してわかったことや, 自分で考えたことを絵カードなどに工夫して表現することができる。
(観察・資料活用の技能・表現)
- (4) 地域の人々の暮らしが変化してきていることや, 人々がよりよい暮らしを願ってきたことが理解できる。
(社会的事象についての知識・理解)

2 ふるさとれきしまップ (4 時間)

地域の歴史を伝える物を調べる活動を通して, 人々がどのような願いをもって暮らしてきたかを考え, 人々の長年の工夫や努力がわかる。

- (1) 歴史を伝えているものに関心を持ち, 実際にさがしたり調べたりするとともに, それらを大切にしようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 地域の文化財や行事から, この地域の昔の人がどのようなことを願ってきたかを考えることができる。
(社会的な思考・判断)
- (3) 調べたり, 考えたりしたことを工夫して「れきしまップ」に表現することができる。
(観察・資料活用の技能・表現)
- (4) 地域には, 文化財や行事など, よりよい暮らしを願う人々の思いが込められたものが今も大切に伝えられていることがわかる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本単元では, 学習指導要領の目標 (2) 内容 (5) の「先人が身近な地域の人々の生活を向上させるために工夫や努力をしてきたことを理解し, そうした歴史をもつ自分たちの地域に対する誇りと愛情をもつ。」と, 目標 (3) 内容 (5) の「地域に残る史跡・道具・文化財を通して, 先人が生活を向上させてきたことを具体的に調べ, 今と昔の暮らしの違いや昔の人の苦心について考える。」を受けて, 地域の発展につくした先人の働きや, 昔の道具とそれらを使っていた頃の人々の生活, また, 文化財や年中行事を具体的に調べて地域の人々の生活が移り変わってきたことを学習する。

地域の人々の暮らしを見つめ直すこの学習では, 児童の住む和田地区の人々の暮らしに関わってきた道具や文化財や年中行事を自分の目で確かめることが何よりも大きな成果を生む。しかしながら, 現代社会の時代の力に押し流されたのは, 和田地区とて例外ではない。和田八幡宮の祭りが歴史を受けついだものとして数少なく残されている程度

である。今も行われている上北野天満宮の祭りは、お祭りという行事の社会的機能を利用して現代の市街地化した地域の協同性・連帯性を強化させた形態をとっている。かつての農村地帯は宅地化が進み、残された田畑での農作業は今や機械化されている。和田小学校の児童数も年々増え続けて、国道をはじめ、幹線道路沿線には次々に新しい店が開店し、住宅事情も変化してきている。

そこで、福井市あるいは福井県の昔の道具やくらしの様子を知るために、「おさごえ民家園」「県立歴史博物館」を見学し、実物を前にして、使った人の話を聞いて今の生活との違いを学習させることを設定した。児童が実際に見学や調査ができる「もの」を教材として取り上げることで、自分の目で見、耳で聞き、実際に触れてみることの大切さを自覚させたい。同時に昔の人々のくらしや地域の生活を向上させるために努力した先人の様子も具体的に調べさせたい。その際、昔の人々の知恵や願い、工夫など、調べたことをカードにまとめ、それらを発表したり、年表に整理したりするなどして、当時の人々の願いや思いについて、児童自らが気づくいていくことが重要であると考えている。

前単元「農家の仕事」では、農作業の時期や機械を使った農作業の様子について学習した。鎌を使った手作業での稲刈り体験、千歯こきを使った脱穀体験を取り入れたことで、児童は手作業の大変さを実感していた。この体験で感じたことをふり返らせながら、本単元の課題解決学習を進めていく。

4 児童について（1組 31名 2組 32名 計63名）

児童は、日常的な生活の中で、初詣・祭り・七五三などに参加したり、道端の道祖神や石碑、神社などに接したりしている。しかし多くの場合は、楽しみを共有するだけに終わり、何気なく見過ごしている。それらが、先人が構成し、共同体の生活に根ざした人々の願いの表れであることまでは感じ取っていない。

社会科の学習に関するアンケートを行った。

社会科の学習で好きなことは何ですか。（複数回答）

・見学や探検	32名	・調べ学習	31名
・課題づくり	21名	・発表	21名
・調べたことをまとめる	16名		

調べ活動では、どのような方法で調べてみたいですか。（複数回答）

・インターネット	46名	・本や図鑑	27名
・見学	17名	・インタビュー	15名
・新聞	2名		

発表では、どのような方法で発表したいですか。（複数回答）

・新聞	23名	・ペープサート	22名
・実物を見せる	16名	・紙しばい	15名
・パソコン	14名	・げき	6名

おじいちゃんやおばあちゃんに、昔のくらしについて聞いたことがありますか。

ある	31名	ない	32名
----	-----	----	-----

学習活動では、見学や探検など直接体験的な活動や自分の課題に沿った調べ活動を好む児童が多いことがわかる。しかし、調べたことをまとめ、発表する学習ではその割合が減少している。課題を解決したことで満足し、その後の学習まで興味・関心が持続していない。そこで、わかったことを自分だけのものにしておくのではなく、互いに伝え合いわかったことを共有すること、学び合うことの楽しさを味わわせたい。また、課題

づくりが好きだと答えた児童は 21 名と少ない。そこで、問題解決の第一歩となる課題設定のときに、写真を見せたり体験を取り入れたりするなど、興味・関心を喚起し、課題意識をもたせるための手だてを工夫したい。

調べる方法として、本や図鑑、インターネットを選択した児童が全体の 7 割を占めていた。これは、図書室や情報室を休み時間に開放したり、各教科の学習などで利用したりすることによって、情報を収集することに慣れ親しんできたからだと考えられる。

表現方法においては、新聞やペープサートなど従来の方法を選んだ児童が多い。本単元は初めて歴史と出会う単元である。そこで時系列に沿った年表作りにも取り組むことが大切であり、発表にも取り入れるようにしていきたい。

昔のくらしの様子について祖父母に聞いたことのある児童は全体の半分で、核家族化が進んでいる和田地区の特徴を示す結果となった。クラス別に見ると、1 組は過半数の児童が祖父母から話を聞いた経験があったが、2 組は少なかった。2 クラスを解くことで、互いに教え合い、聞き合う学習を進めていくことができると考える。

5 指導について

指導体制

課題に対する一人一人の思いを大切にするために、2 クラス合同にし、課題別の学習グループを作ることにした。

学級を解き二人の教師が指導することで、児童のより多くの課題に対応することができる。また、調べ活動においては、本やインターネットなどいくつかの方法に対応することができる。まとめる段階においては、まとめている途中で新たな疑問ができたときに、もう一度本やインターネットで調べたいという児童の要望にも応えることができる。発表会の段階では、児童の表現方法に対し機器操作を含め手厚い支援ができると考えた。

教材の工夫

課題設定では、児童の課題の幅を広げるために、本単元のねらいに沿った課題を決定することができるように、また、しぼり込んだ課題をもって見学に行くことができるように、実際に見学に行く場所の写真を提示する。また、その見学先の画像が、調べ学習での課題解決の 1 つの手段となるよう、児童がいつでも利用できるようにしておく。

和田地区は核家族の家庭が多く、児童の半数以上がお年寄りとあまりふれ合ったことがない。そこで、見学の際にはアシスタントボランティアである保護者や祖父母に直接話を聞くことができる場を設定した。実物を前にして道具の使い方や思い出などを話してもらうことで児童にも実感として伝わり、課題解決のよい支援になると考えた。

学び合い

調べたことを発表したり、質問したりする学習活動を通して、児童は学んだことをさらに深めることができると考えた。そこで 1 学期から、発表の内容に沿った質問をすることをめあてとした学習の場を設定してきた。本時では、ポスターセッション形式で発表会を行う。発表に対して疑問点などを質問し、それに答えることで、あいまいだったことがより明確になり、課題の解決に近づいていくことをねらいたい。

指導に生かす評価

学習意欲や発表についての自己評価をさせ、わかったことやさらに知りたいことを記述したり、口頭で発表したりすることによって、次時への意欲を高め、学習を深めさせたい。

6 指導計画（全 16 時間配当）

時	学習内容	指導形態	関	考	表	知	評価規準
第1次 昔のくらし	1 昔の農家の写真を見て気がついたことを話し合い，昔のくらしや道具に興味・関心をもつ。	単					写真を見て，昔の農家の道具や暮らしに興味・関心をもつことができる。
	2 七厘を使って火おこし体験をする。	全					七厘を使う体験をしたりして，昔の人々の苦労や工夫に気づくことができる。
	3 学習課題をもち，調べる方法を考える。	2					調べたいことを見つけ，調べる方法を考えることができる。
	4 考えた方法で調べ，絵や文でまとめる。	2					調べたことをまとめることができる。
	5 博物館を見学する計画を立てる。	2					博物館で調べたいことや調べる方法を進んで考えようとする。
	6 博物館を見学し，課題を解決する。	全					課題を解決することができる。
	7						
	8 発表の準備をする。	2					発表に向けて，調べたことをわかりやすくまとめることができる。
	9						
	10 調べて考えたことを発表し，質問に答える。	2					生活の変化や人々の願いを発表することができる。 友達の発表を聞いて，わからないことを質問することができる。
	11 (本時)						
	12 昔のくらしについてわかったことをまとめる。	単					生活の変化や人々の願いを理解することができる。
第2次 ふるさとれきしまップ	13 地域に昔からあるものを調べる計画を立てる。	単					地域に昔からあるものに気づき，歴史を伝えているものはほかにどんなものがあるか，調べる方法を考えることができる。
	14 グループに分かれて調べる。	単					グループで協力し，進んで調べようとする。
	15 グループの発表をもとに，「れきしまップ」にまとめる。	単					調べたことを発表したり，マップをつくったりすることができる。
	16 学習のまとめ	単					歴史を伝えるものはたくさんあり，今も大切にされていることを理解することができる。

指導形態 単：1クラス 2：2クラス合同 全：4クラス合同

7 本時の目標

発表会を通して、くらしの移り変わりや人々の願いを表現したり、気づいたりすることができる。

8 準備物

OHC, パソコン, 発表用の制作物, ホワイトボード

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支 援 (・) と 評 価 ()
発表者グループと聞き手グループに分かれ、本時のめあてを確かめる。	
<p>発表会をしよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>発表者グループ(3 - 2教室・小寺) 調べてわかったことや感じたことを聞く人に伝えるように発表しよう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>聞き手グループ(3 - 3教室・北川) 質問したり、気づいたことを伝えたりできるようにしっかり聞こう。</p> </div> </div>	
<p>調べてまとめたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 教室で各 3 グループが順に発表する。 ・ 聞き手グループの児童は、各教室を巡り、3 グループの発表を聞く。 <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台所の道具 ・ お風呂・トイレなど ・ 夏や冬のすごし方 ・ 住まいの工夫 ・ 家の造り ・ 着る物・履き物など ・ 学校の様子 ・ 農家の仕事 など <p>【予想される発表の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペープサート ・ 新聞 ・ 実物 ・ 工作 ・ 紙しばい ・ 劇化 など <p>本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わかったことや気づいたことを発表する。 ・ アシスタントボランティアに話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までに使った写真や道具、掲示物を教室に用意し、発表や質問にいつでも使えるようにしておく。 ・ 主として、各教師が 2 教室を巡り、アシスタントボランティアとともに児童を支援する。 <p>《質問に答えられないとき》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アシスタントボランティアに説明していただいたり、同じ課題グループや聞き手の中でわかる児童に助けてもらうようにする。 <p>《質問が出ないとき》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の中心となる部分を聞き手の児童と確かめ、その中でわからなかったことやもっと知りたいことを質問するように助言したり、さらにアシスタントボランティアにも質問をお願いする。 <p>みんなに聞こえる音量やわかりやすい速さで発表することができたか。</p> <p>(表・・・観察, 発表)</p> <p>友だちの発表をよく聞き、質問したり気づいたことを伝えたりすることができたか。</p> <p>(表・・・観察, 発表)</p> <p>人々の願いや思いを表現したり、その願いや思いに気づいたりすることができたか。</p> <p>(考・・・発表)</p>